

画面で読み聞かせた絵本の理解における誤信念理解と類推(V)

光田 基郎
ノースアジア大学 経済学部

キーワード：絵本読み聞かせ、誤信念理解、類推、成人

目的

誤信念理解を主題とした絵本を大画面で学生に読み聞かせ、内容理解を求めた際の作業記憶及びその他の下位技能（類推におけるエピソード間の対比、写像、誤信念理解における正反応抑制、文法理解、別の長文理解検査による作業記憶成績など）の寄与の実験である。特に誤信念理解で誤解内容の理解のみを求めたか、さらに他人を誤信念に従わせる意図の理解も必要な欺きの理解かによって作業記憶の負荷と下位技能の寄与の様相も異なる傾向を指摘する。

方法

(イ) 材料・参加者：(a) 藤巻愛著「たぬきえもん」(福音館)で田野久衛門という役者が夜の山道で大蛇に名前を聞かれてタヌキと誤解されて飲み込まれずに命拾い。さらに人間に化けたタヌキを装って「タヌキはお金が怖い」と大蛇を欺いた上に「大蛇はタバコを嫌う」事を聞き出して村人にこの事を伝え、大勢の人が山に行ってタバコの煙でこの大蛇を追い払う。大蛇が「タヌキの嫌うお金で仕返し」の意図で役者の家に沢山のお金を投げ込んだので役者も村人も大金を得る話 15 画面、の読み聞かせをパソコンに録音・録画して大学1年生45名(M;42,F;3)に大画面で読み聞かせた。(b) 韓国民話(虎と干柿:藤巻著・福音館)より、泣く子を母が「泣けば狼や虎も来る」と脅しても泣き止まず、干柿を与えたら泣き止む。外で虎が聞いて「自分が来ても泣き止まない子が黙る程、干柿は怖い」と誤解、虎が逃げて牛泥棒と鉢合わせ。泥棒は闇夜に牛を盗む気で虎に飛び乗るが、虎は「干柿に襲われた」と誤解し泥棒を背中に乗せて逃げる話と再認/下位技能検査項目を計 24 画面提示後に、私大生 56 名(M51,F5)が下記の検査項目に正答を選択反応した。(ロ) 検査項目:(a)上記の内容の逐語・推理再認,(b)幼児用の長文理解(留守番中の3エピソードを画面で読み、その順序を再構成),(c)図形の類推,(d)反応抑制,(e)文法理解(タクシーがトラックを牽く絵の選択),(f)幼児用誤信念理解検査のサリーとアン課題(2肢選択),(g)対象物の予期しない移動を扱った4肢選択の成人用誤信念検査(女の子が左端の青ケースにヴァイオリンを入れたが、彼女の留守中に妹がこれを赤または紫のケースに移し、赤ケースの位置も元は青ケースのあった左端の位置に並べ替えたほか、紫と緑ケースの位置も変えて退室した。姉が戻った時には4個のケースのいずれを最初に開くかを参加者に質問し、上記のケース1点毎にその比率を記載させた(Birchなど'07の手續きに準拠)。(ハ) デザイン:上記(ロ)-(g)の誤信念理解課題で妹が(a)どのケースにヴァイオリンを移し替えたか不明の「どれか不明」条件,(b)赤ケースに移し替え、位置も姉が最初に楽器を入れた青ケースの位置に並べ替えた「情報追加」条件と(c)紫のケースに移した「情報無効」条件を級間変動因、姉が戻って最初に開く青、赤、紫と緑のケース毎に答えた選択の主観的確率を級内変動因とする混合型共分散分析で、上記の絵本の内容再認と、誤信念理解をも含めた文章理解の下位技能、特に作業記憶や類推などの下位技能との関連を指摘し、次に重回帰分析で上記(g)の4肢選択での楽器ケース選択の主観的確率の寄与も述べた。

結果

(イ) 上記法(イ)の絵本の内容の推理再認成績との相関を求めて共分散分析した結果、絵本(a)の内容の推理再認成績の主効果は、いずれか(不明)=情報追加(赤を选好)>情報無

効(紫を选好)の結果(5%水準)を示した。(b)絵本(b)では、いずれか不明群では上記の全ての変数の成績と再認成績の高い相関係数値(5%)と絵本の再認の

(ロ) 高得点(1%)及び、紫・緑容器への移動(情報無効)群では上記の不明群とは逆の負相関係数値並びに絵本の再認成績低下(5%)も示された。以上より誤信念理解課題での干渉刺激の増加による意味的類推の成績低下(Thiboutなど'10)及び、4肢選択での誤信念理解における干渉との対応を想定し得よう。(ロ)内容の推理再認成績を従属変数とした重回帰分析と判別分析では「いずれか不明」条件では上記の欺き文、誤解文共に2肢選択誤信念課題と反応抑制のみが正の説明変数となる。以上より誤信念理解に於ける選択肢数による干渉を指摘する。(ハ)下図のクラスタ分析の結果、(a)大蛇を誤信念に従わせる意図を基本にした「欺き」の絵本では筋立て理解での作業記憶容量と第2クラスはエピソード再認と類推、3番目が二次的誤信の理解に必要な文法と4肢選択誤信念理解での干渉及びその反応抑制のクラスに3分され、(b)誤解内容の理解を求めた絵本では作業記憶と再認・類推と誤信念理解が統合されたクラスと、4肢選択の誤信念理解課題の2クラスとなる。

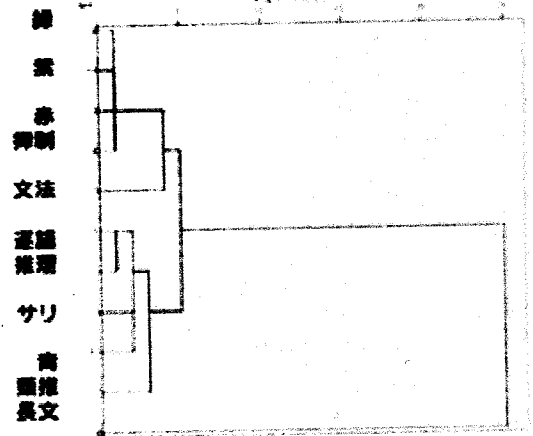


図1-a 「欺き」文の下位技能のクラスタ分析結果(不明群)

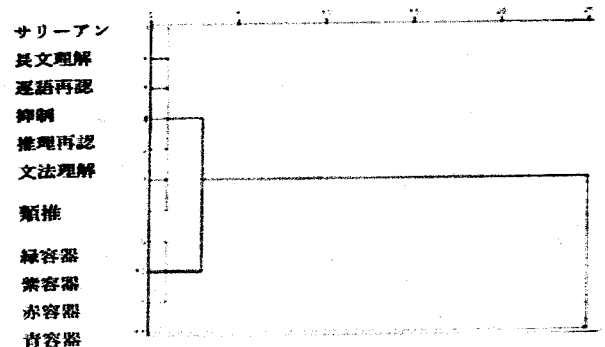


図1-b 「誤解」文の下位技能のクラスタ分析結果(不明群)

結論と要約

連想強度と類推(Holyoakなど'14)の処理より複雑な誤信念理解によるエピソード間の類推とその負荷の差異を指摘した。